

来・ぶ ら り



《児雷也豪傑譚》
（合巻本）

龍谷大学図書館所蔵

合巻本は、黄表紙のあとを承けて文化4年(1807)以降の草双紙を総称している。歌舞伎物と密接なつながりを有する作柄となり、表紙は上演役者の似顔絵を多色摺錦絵にしたもので実に興味深い資料である。

特色ある図書館に転換の英断を

杉 村 棟

本学の図書館の運営に直接関わるようになってからまだ日が浅く、図書館が抱えている問題点をまだ十分に把握していないが、この機会に日頃考えていることを思いつくままに幾つか述べてみたい。

最近の急速な社会の変化は、当然のことながら大学図書館にも影響を及ぼさずにはおかない。研究の中核でもある図書館は、従来のような学内の単なる知的活動の場ではなく、国内外の研究・教育機関、博物館・美術館等の文化施設、医療・福祉施設等との連携を図る時代に至った感が強い。このような時代の趨勢に従って、本学の図書館もそれぞれキャンパスの事情を反映させた役割分担を考え、特色ある図書館に転換していくべきであろう。例えば、貴重な古典籍類や大谷探検隊将来の歴史・宗教・考古・美術・民族学的資料が収蔵されている大宮図書館には、適切な保存条件を備えた収蔵庫と効果的な展示を可能にする展示施設を併設して総合資料館的な側面をもたせてはどうだろうか。

このように学外へ資料を公開し、デジタル化した学術情報を発信する一方で、学内の研究を活性化させる方策も併せて考えなくてはならない。その一つが図書館にお

ける研究環境の整備と学術誌の充実である。例えば、院生（後期）専用の個室（キャレル）を書庫内に設置することも一つの方法であろう。大学図書館が購読する学術的に質の高い国内外の定期刊行物の多寡と種類は、その大学における研究の質とレベルを象徴すると筆者は考えている。分野にもよるが最新の研究情報は学術機関誌や学会誌等の掲載される論文に依存する度合いが高い。早晩、大学図書館の連携やコンテンツ・サービスが促進されるであろうが、それまでは学術雑誌の購読を随時増して行くべきであろう。最後に提言したいことは、経験を積んだ司書、なかんずく専門をもった司書の登用である。欧米の大学図書館には特定の分野に通暁した司書が数人はいるものである。

以上は、いかにも瑣末なことにみえるが、いずれも本学の発展につながる重要な問題ではないだろうか。山積する諸問題は一朝一夕には解決できないが、本学の将来のために何を優先して改善すべきか、英断を下すべき時期にきているように思われる。

（図書館長・国際文化学部教授）

特色ある図書館に転換の英断を	図書館長・国際文化学部教授 杉 村 棟	1
必見！レポートの達人を目指せ		2
公募エッセー 本 と 私	（法学研究科修士課程1回生）大山万里子	8
本というメディア	文学研究科博士課程1回生 原 田 靖 也	



レポートの達人を目指せ

「みなさん、引用ばかりや感想文の様なレポートを提出した記憶はありませんか？」

大学でのレポートや論文の出題の意図は、講義で示されたテーマ、或いは自分自身が関心のある分野について「私は何をどのような視点から論じるか」という問題意識が育まれることや思考と創造をうながすことにあります。そこで今回はレポート・論文の提出機会が多い大学生に参考となるような基本的な書き方を紹介してみたいと思います。

レポートと論文の違いとは？

レポート：ある事実や学説について自分が知り得たことを報告するもの

論文：自分の研究で得た結果を報告し自分の意見を述べたもの



つまり、レポートは主観的な感想を含まずに事実と根拠を示した意見だけを書くべきであり、論文は提起した問題について論理的・実証的に論述を展開して意見を書くことが望まれます。

このように比較すると、レポートは説明するものであり、論文は論じるものであるといえますが、大学のレポート試験では「○○について説明せよ。」や「○○について論ぜよ。」のように様々な表現で課題が出されます。卒業論文のように明らかに論文を書くことが求められている場合を除いては、レポート、論文という表現にとらわれ過ぎず、出題者にその真意を確かめることがよいでしょう。

テーマを設定する

大学で要求されるレポート・論文を理解できたら、そのテーマを設定しましょう。しかし、自由な題材でのレポートや卒業論文では何をテーマにするかということについて悩むことが多いと思います。そこで、テーマを設定するときのポイントを次に示します。

テーマ設定の範囲を知る

卒業論文の場合は何らかの形でゼミや専門分野と関係し、レポートは講義内容やテキストと関係した範囲がテーマの大きな枠になっていますので、その中から自分が関心のある内容や疑問に思うことをピックアップします。

文献や資料を読む

テーマを見つけるには好奇心や問題意識をもつことが第一歩です。それらは授業・読書・教員や友達との対話など様々なところから生まれますが、社会・人文科学系を学ぶ皆さんにとって重要なことは読書です。テーマを決める

図書館での
マナー
1

館内では私語を慎んで下さい

グループで学習したい場合は学習室を利用してください。
あまり騒がしい場合は退館していただくこともあります。



までは基礎文献やある分野では必読書とされているような重要文献などが必要で、テーマが決まってからは自分の主張を論理的に実証していくための資料や文献が必要となってきます。

テーマを明瞭にする

自分自身のもつ疑問や問題意識を念頭に資料や文献を読み、そこから考えることによってテーマを絞り込んでいきます。テーマを明確にしてから取りかかることが論理的で首尾一貫したレポートや論文の作成につながります。



資料を収集する

テーマが設定できたら、次は資料収集です。

論文・レポートを作成する上で、資料の収集は欠くことができません。なぜなら、資料がなければその論文・レポートは事実の裏付けがなくなり、説得力がなくなってしまうからです。

資料とは図書、雑誌、新聞などの文献の他、写真や映画、私たち自身の実験・観察なども含みますが、ここでは、図書館を有効に利用して資料を収集することにしましょう。

主な資料

参考図書

- ・辞書類 用語、外語、専門的な知識を調べる。
- ・名簿 世界中の大学、企業、主要な組織、政府機関などを調べる。
- ・人名辞典 特定の著名人について調べる。
- ・百科事典／図鑑類 事物の一般的な知識を調べる。
- ・統計本 数的資料を調べる。

図書

- ・文献調査に取りかかる第1ステップとして最適な文献である。
- ・ある分野の理論や歴史、一般的な知識などを調べるときに活用する価値が高く、総合的な情報を入手することができる。
- ・入手できる情報源は他の文献よりは遅れている。

雑誌・報告書

- ・新聞よりも情報の種類が多く分野も広い。
- ・現状についてかなり詳しく書かれており、特集記事などがこれにあたる。
- ・専門分野に関する情報が収集されている。

新聞

- ・研究材料として最も新鮮な情報を掴むことができ、研究テーマを考えるとときも有効である。
- ・その研究において、その時々的事象を読み取れるが、ジャーナリスティックに報道したものが多く、信憑性・確実性・客観性に欠ける。

館内での携帯電話等の使用は禁止です

電話をかける際は一度退館し、館外で使用してください。
トイレでの使用も禁止しています。



レポート・論文を書く際には前ページのような資料が参考になります。

では、このような資料はどのように探せばいいのでしょうか。

(→詳しくは「来・ぶらり」20・21号参照)



龍谷大学図書館蔵書から探す

具体的に求める資料がはっきりしている場合は、本学図書館に所蔵しているかOPAC（蔵書検索端末）を用いて検索してみましょう。書名や著者名、キーワードなどを入力して所蔵を確認します。その際、各図書館（大宮・深草・瀬田）における相互取り寄せも可能ですので気軽にカウンターまで申し出て下さい。その他にも貸出中圖書の予約制度や購入希望図書制度などの様々なサービスがあります。

求める資料がはっきりとしていない場合は、出版年鑑・国書総目録・統計調査資料逐次刊行物ガイドなどの書誌・目録・索引類を用いたり、次に紹介するインターネットを使って雑誌・新聞記事索引等のデータベースから求める資料の検討をつけて探すといでしょう。



インターネット・データベースを利用して探す

本学図書館ホームページ“資料検索”画面から様々なデータベースにアクセスができ、求める資料を容易に探すことができます。代表的なものは次のとおりです。

1) 日外WEBサービス（学内からのみ利用可能）

* BOOKPLUS

昭和元年より現在までに出版された本の情報を集めた国内最大の書籍情報。

1986年以降の本には、内容目次や帯情報、小説のあらすじまで収録。

「新着情報」では毎週約1000冊の新刊を収録。

* MAGAZINEPLUS

学術誌・大学紀要・専門誌を中心とした国立国会図書館提供の雑誌記事索引情報（1975年～現在）に、関心のあるテーマやキーワードを入力すれば、それに見合った記事を検索することが可能。

図書館での
マナー
3

館内での飲食は禁止です

図書館の資料を保護していくためにも、館内では飲食を行ってはいけません。
飲食物を持っている人は鞆に入れてください。



2) 日経テレコン21 (図書館内からのみ利用可能)

日経の速報ニュース (1日約1500本)、英文速報ニュース (1日約500本)、株価指数、為替、債券価格などのほか、日経4紙 (日本経済、日経産業、日経流通、日経金融の各新聞) の新聞記事検索 (1985年1月～最新) が可能。

3) 朝日新聞記事検索 (図書館内からのみ利用可能)

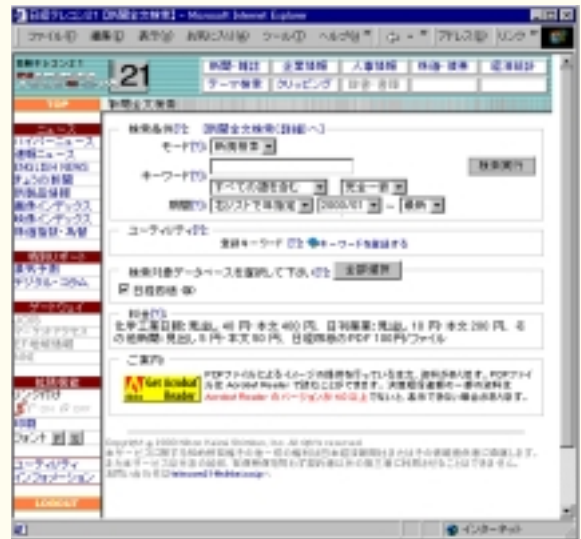
1985年から今朝までの朝日新聞の記事検索が可能。

(利用にはパスワードが必要ですので、カウンターに問い合わせして下さい。)

4) NACSIS Webcat

国立情報学研究所 (旧: 学術情報センター) が提供する学術系の総合目録システムで、国内外の図書・雑誌等の情報や所蔵大学を表示。

この検索を使えば、本学図書館に所蔵していない資料でも、本学図書館で紹介状を発行した後、直接他大学へ閲覧に行ったり、文献複写サービスを依頼することが可能。



(日経テレコン21)

その他、資料の収集の方法としてひとつのテーマにあった図書を探し出したら、巻末などに掲載されている参考文献にあたって資料を増やしていくなどの方法があります。

このようにしてコツコツと集めた資料をいつ、どんなときにでもすぐに引用、参考できるようにしておくためには資料の整理・管理が大切になります。1冊のノートやカードなどに文献の著者、書名、出版社、出版年などを記入し、項目別に整理したり、資料の概要を書いたり、余白を作って適宜新聞の切り込みなどの新しく得た資料を添付したり、自分の意見などを記入しておく、いざ論文・レポートを書くときに非常に役立つのではないのでしょうか。

図書館のルール ～必ず守りましょう～

- 1 貸出手続きをする
手続きなしで持ち帰るのは「窃盗」だという認識をもちましょう。
図書の又貸しはやめましょう。
- 2 返却期限を守る
借りたい本がいつまで待っても返ってこない。そんな経験はありませんか？
- 3 資料は丁寧に扱う
あなた一人の資料ではありません。皆さんの大切な財産です。
- 4 使い終わった資料は決められた場所へ
次に使う人のためにも、必ず元の位置あるいは返本台に返しましょう。

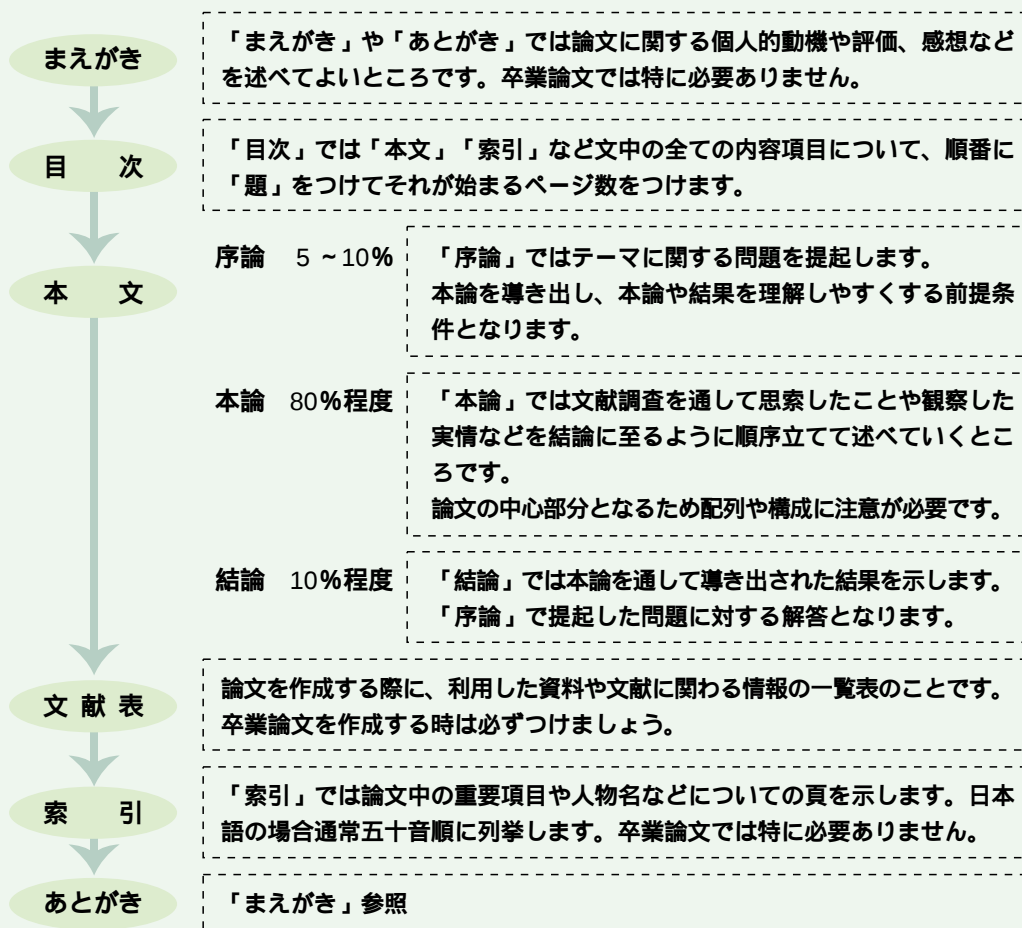
論文の構成を考える

テーマが決まり、資料が入手できたらいいよ構成を考え、作成にとりかかりましょう。

ここではレポートに比べ比較的形式が定まっている論文の構成を紹介します。

論文は「問い」から始まり「議論」を経て「解答」に至るのが基本となりますので、構成としては序論・本論・結論の順に展開されることが一般的です。次に基本的な構成順序や各部分の分量を図にまとめて示しますので参考にして下さい。

< 論文の基本的な構成と順序 >



大学で書くべきレポートや論文について少しは理解していただけたでしょうか？ 今回の紹介が、中身のある論文、また形式の整った論文作成の手がかりとなることを願います。みなさん、十分な準備段階を経て納得できるレポート・論文作成で学習成果を高め、大学生活を充実させてください。



著 作 権

レポートや論文を作成する際に、参考文献を使用します。みなさん何気なく使っているかもしれませんが、参考文献を使う際には「著作権法」という法律があるのを知っていますか？これは、著作権を守るためのものです。法律というと、とても難しく感じるかもしれませんが、常識を持って取り組めばさほど難しい物ではありません。ここでは論文作成時に知っておくべき、著作権についての簡単な知識を紹介します。

個人的に使うための複製（コピー） 著作権法第30条

勉強や娯楽のために個人的に、または、家族や友人同士で使う場合は、本などのコピー、ラジオやCDからの録音、テレビ放送の録画、練習のための楽譜のコピーなどを行うことができます。但し著作権法上、本の内容の大半におよぶコピーはできないといった決まりがあります。

CDやテープはもとより文献についても個人で利用する以外に、利益を目的としてコピーを行うといった行為は禁止されています。



本などからの引用 著作権法第32条

皆さんは論文やレポートなどを書く際に、図書館の資料などを利用して作成されると思います。その時「自分の意見と参考文献の引用は区別して書くこと」「引用した参考文献を明記すること」は基本的なルールです。論文やレポートを作成するには以下の条件を守れば本や資料からの引用が可能です。

- 1) 公表された著作物であること。
- 2) 他人の説や文章を取り入れる必要性があること。
- 3) 引用文は原文そのまま引用すること。仮に要約する場合はその旨を記すこと。
- 4) あくまでも自分が書いたものが主で、引用はそれを補強説明するためのものとする。また引用は最小限にとどめ、間違っても自分の書いた量より多くならないこと。
- 5) 引用文を行頭より1字から2字上げて、引用文を自分の文章と区別すること。また引用文が短い場合は「」等で囲むだけでもよい。
- 6) 引用文の典拠を明らかにすること。その場合、典拠の仕方は以下の通りに大別できる。

） “ 田中^{*1}によれば・・・ ” または “ 田中〔3〕によれば・・・ ” というように、そのレポートの最後（長いレポートでは各章末）に番号順に各文献の書誌情報を記す。同じ文献を何度も使用する場合は、初出の番号を使う。

） “ 田中（1980）によれば・・・ ” というように著者名と発表年を記し、レポートの最後（長いレポートでは各章末）に、著者の姓のアイウエオ順またはABC順に、各文献の書誌情報を並べる。

以上、著作権法について簡単に説明いたしましたが、皆さんが図書館を利用される際には、皆さん一人ひとりが著作権法上の責任を負うことになります。ルールを守って、責任ある行動をとって下さい。



本と私

大 山 万 里 子

私が小学生の当時、我が家にはある習慣があった。毎週日曜午後に、母が、私と妹を近所の本屋に連れて行く。1時間後に母親が迎えにくるまで、私達はそれぞれ一冊欲しい本を選んでおくのだ。毎回一冊しか買ってもらえないから、子供の方も真剣に選ぶ。心から愛着のある本で私の本棚は徐々に埋まっていった。今でもその本は現役である。母親がピアノ教師をしているため、レッスンの待ち時間に、生徒たちが読んでいるからである。

最近、大人の間で絵本の人気が高まっているそうだが子供時代に読んだ本への懐かしさだろうか？絵本に「癒し」を感じるということもあるのだろうか、絵本に込められている「夢」が、大人になって懐かしくなったのか？本は、昔の自分に出会うためのアルバムでもあるかもしれない。

確かに、絵本コーナーには、今でも十数年前に読んだ本と同じものを目にすることが多い。良い本とは、母から子へと読みつがれていくものなのかもしれない。

自分で選んだ本を読むという習慣をつけてくれた両親には、今でも感謝している。

子供の文字離れが、問題視されて久しいが、私自身が本からうけた影響を考えると、大変に残念なことだと思う。本は、時に私の先生になり、友達になってくれる。

大学に入学して、高校とは図書館が比較にならないほど充実していることに、大変喜んだ。膨大な数の図書の中から、自分が欲しいと思う本を選び出す。私にとって、楽しい時間である。図書館が、学生の憩いの場所になったとき、本はますます、その効果を発揮できるであろう。

(法学研究科修士課程1回生)



本というメディア

原 田 靖 也

「本というメディアはいずれなくなる。」そういう人たちもいる。ここ数年、家庭でコンピュータとインターネットが大幅に普及し、CD-ROM化と電子ブック化、そしてインターネット経由で本を読むことができるようになったことにより、書籍に対する感覚が少なからず変わってきているのが原因の一つである。手で書かれていた文書がワープロに取って代わられたように、すべてがコンピュータ化されるというのである。

確かに書店における雑誌以外の書籍の売り上げは年々落ちていると言われているが、それでも書店から本が消えるとは考えにくい。文章を読むだけならば電子ブックでも本でも同じであるが、本には単に読むだけではない楽しみがある。出版社ごとに表紙が違うのは当然として、

ハードカバーは装丁が一つ一つ違っている。美しい装丁の本を思わず手に取り、そのまま装丁に惹かれて買ってしまおうということもあり得る。また、特に買う本を決めずに書店まで行き、一冊一冊手に取って目を通して気に入った本を買う。こういったことはインターネットを通じて読む場合にはできない。

コンピュータ化とインターネットの普及によってすべてが便利になっていく一方、書店に行って一冊一冊手に取るという手間のかかる本の読み方には、本を読むという目的以外に本を手にするという楽しみがある。装丁も重さも違う本を手にし、それらを楽しむことのできる人たちがいる限り、本という長い歴史を持つメディアはなくなることはない。

(文学研究科博士課程1回生)

エッセー募集

次号(3月発行予定)に掲載するエッセーを募集します。本や図書館をテーマとしたエッセー(600~650字)なら、なんでも結構です。

*採用された方には粗品と図書館オリジナルテレカを差し上げます。

詳しくは各図書館カウンターまで。

龍谷大学図書館報『来・ぶらり』第22号

2000年10月発行

編集・発行 龍谷大学図書館

〒612-8577京都市伏見区深草塚本町67

☎075-645-7885(ダイヤルイン)

図書館ホームページアドレス <http://opac.lib.ryukoku.ac.jp>